

— 話題 —

脳卒中地域連携パス

日本医科大学千葉北総病院脳神経センター
三品 雅洋, 金 景成, 小林 士郎

パスとは

1950年代の米国軍事産業で、各工程の順番や時間の経過をフローチャートで示すことで、作業開始から終了までの時間的効率性を追及し、経費削減と工期短縮を目的とした工程管理技法が考案された¹。これがクリティカルパス(critical pathway)法である。1983年、米国は診断群分類による医療費定額支払い制度を導入、これに対応するために、ボストンの看護師 Karen Zanderがこのクリティカルパスを医療現場に応用した。1990年代、本邦の医療現場でもこの手法が導入された。最近では、クリニカルパス(clinical pathway)、あるいはパスという名称も使用される。

パスは、良質な医療を効率的かつ安全、適正に提供するための手段として開発された診療計画書であり、医療の標準化を目指す。しかし、脳卒中の治療パスを有効に実行するには、単に診断・治療を手順どおりに実施するだけでは不十分で、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカー(medical social worker, MSW)など、業種を超えた脳卒中プロフェッショナル集団であるstroke care unit(SCU)あるいはstroke unit(SU)が必須である^{2,3}。

脳卒中の治療の中心はリハビリテーション

脳卒中診療の施設間格差は、リハビリテーションであろう。一部の急性期病院ではリハビリテーションが不十分で、入院中に廃用が進行する⁴。脳卒中後遺症だけでなく、この「廃用」の分の回復も要するため、回復期リハビリテーション病院でのリハビリテーションは長期化、後遺症が軽快しないこともありうる。特に軽症患者では、急性期リハビリテーションの有無が社会復帰と要介護の差になる可能性がある。そして、急性期病院のリハビリテーションは、マンパワーと設備において回復期リハビリテーション病院に劣る。廃用を予防し早期に回復期リハビリテーション病院に転院することが、脳卒中患者の予後に大きく影響するのである。

回復期リハビリテーション病院退院後も、リハビリテーションを怠ると、廃用が進行する。脳卒中のあらゆる病期

において、リハビリテーションを継続可能な体制が要求される。医療機関の機能分化が進んだ今、地域内でリハビリテーションをシームレスに継続させるシステムが⁵、脳卒中地域連携パス(liaison critical pathway for stroke)なのである。

脳卒中地域連携パスの意義

急性期病院の診療情報書には、最新の診断方法と薬物治療・手術を中心に「自慢話」が書かれる。一方、回復期施設が求める情報は、患者と家族の目標や認識、介助の状態、食形態、禁忌動作・食品・薬品など、転院当日より診療に必要な具体的事項である⁴。急性期は「疾病」、回復期は「障害」、維持期は「生活」を対象にしており、視点が異なるのである¹。情報を共有するには、情報伝達フォーマットの導入など、施設間で協議する必要がある。脳卒中地域連携パスの診療報酬認可には年3回以上のパス会議が義務づけられているが、この会議で地域全体の脳卒中診療の実態が明確となり、医療資源の質・量・配置など、医療行政にも重要なデータが共有できる⁵。脳卒中地域連携パスは、パスシートによる情報伝達だけでなく、地域全体の脳卒中診療の改善にも寄与するのである。

日本医科大学千葉北総病院脳神経センターでは、2008年3月に印旛脳卒中地域連携パス(Inba Clinical Pathway for local Stroke network, InCliPS)を完成させた。詳細はウェブサイト(<http://www.nms.ac.jp/ni/inclips/>)を参照されたい。

文 献

1. 橋本洋一郎：脳卒中地域連携クリティカルパス作成とその応用。柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田 誠, 清水輝夫, 寺本 明編。Annual Review 神経 2009。2009; pp 112-120, 中外医学社 東京。
2. Kalra L, Evans A, Perez I, Knapp M, Donaldson N, Swift CG: Alternative strategies for stroke care: a prospective randomised controlled trial. Lancet 2000; 356: 894-899.
3. Kwan J, Sandercock P: In-Hospital Care Pathways for Stroke An Updated Systematic Review. Stroke 2005; 36: 1348-1349.
4. 三品雅洋, 近藤国嗣：【最新・脳血管疾患 Update—研究と臨床の最前線】脳卒中地域連携パスの現状と今後の課題。週刊医学のあゆみ 2009; 231: 570-575.
5. 三品雅洋, 松本 尚：【脳卒中医療連携の現状と問題点】ドクターヘリを駆使した印旛脳卒中地域連携パス。日本医師会雑誌 2009; 138: 1353-1357.

(受付：2010年2月4日)

(受理：2010年2月18日)